■令和5年度第1回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議B分科会議事概要
日時：令和５年８月 23 日　14:30～16:30
場所：我孫子市役所議会棟Ａ・Ｂ会議室
出席委員：林委員長、坂巻委員、高橋委員、加藤委員、河南委員
事務局（企画政策課）：高見澤次長、河合係長、鈴木主任、岡村主任
会議の公開/非公開：公開
傍聴人：０人

【議題】令和4年度施策評価について
◎基本目標3　あびこで子どもを産み、育てたくなるまちづくり
〇施策名称:３－１　妊娠・出産・子育てへの切れ目ない支援
<発言要旨>
委員：学童保育室について、５、６年生の入室申請に対応できなかったとあるが、市としては５、６年生も含めて入室の対象としていく考えなのか。

事務局：希望する児童は５、６年生も含めすべて対象とすることが望ましいと考えている。市域西側の学校では児童数も多く、施設のキャパが足りていない状況のため、拡張も含め対策の検討が必要と認識しているところ。

委員：施策全体を見ると、指標の５分の２が未達成とはなっているが、検診の受診率などは新型コロナの感染を避けるため受診を控えたという事情もあり、事業の問題というよりは社会情勢の影響というところが大きいため、「良好」と評価したい。

<施策の評価>
「良好」とした。

〇施策名称:３－２　子どもの成長に応じた発達への支援
<発言要旨>
委員：児童発達支援事業利用時のアンケートでは、33 世帯が回答とあるが、全体は何世帯なのか。また、「子どもが通所を楽しみにしている」が 88%、「支援に満足している」が 94%とあるが、否定的な意見などはなかったのか。

事務局：世帯数は 36 世帯、契約している児童数は 60 人と確認している。アンケートの設問は 23 問あり、様々な活動に対する評価や環境整備の面の評価を問うものもあるが、全体の満足度を測る上で、子どもが通所を楽しみにしているか、支援に満足しているかの２問を取り上げさせていただいた。回答は「はい」、「いいえ」、

「どちらともいえない」、「わからない」の４択だが、「いいえ」と答えた方はいなかったと確認している。

委員：こども発達センターの相談や療育につながった割合の指標について、保護者の就労等の都合がつかずに相談や療育につながらなかったケースがあるようだが、どのような理由か。

事務局：こども発達センターの開所が平日の９時から 17 時までであるため、平日仕事をされている保護者は初回面接後２度目の訪問が難しかったという状況が考えられる。

委員：働いている保護者は多く、平日の昼だけの対応だとなかなか都合がつかない方も多いのではと感じる。特例的に土日や平日でも夕方以降の時間帯に受け付けるということはできないのか。

事務局：何か工夫できることはないか担当課に共有させていただく。

委員：相談や療育につながらなかったケースにおいて、保護者側が必要性を感じないからという理由もあったようだが、子どもにとっては適切な支援を受けることが望ましいと思われるので、親サイドへの啓発、適切なアプローチが今後の課題と感じる。

<施策の評価>

「良好」とした。

〇施策名称：３－３　魅力ある学校づくり

<発言要旨>

委員：学校給食における子どもたちへの我孫子産野菜使用の認知度調査について、具体的な野菜の種類や米の種類についても問うアンケート内容なのか。

事務局：設問としては、給食に我孫子産の野菜、米が使われていることを知っているかを問うもので、具体的な種類までは特定していない。ただし、日ごろから献立表を作るときなどにはどんな野菜が使われているか紹介しているものと思われる。

委員：水泳指導の民間委託について、中学校も含めて導入していく目標なのか。

事務局：最終的には中学校も含めた全 19 校への導入を目標としている。

委員：体操やダンスなどの分野へも展開していく考えはないのか。

事務局：現時点では担当課でそういった考えまで持っているとは認識していない。

委員：不登校児童への対応について、指標は対応する側の実施率となっているが、支援を受ける児童側の満足度などを測るものはないのか。

事務局:先ほどの「３－２　子どもの成長に応じた発達への支援」の施策の中であった、教育・発達相談継続ケースの利用者アンケートによって満足度の確認をしている。また、不登校児童・生徒の居場所づくりとして、これまでは教育相談センターかけはし・ひだまりが役割を担っていたが、教室には行けないが学校には行けるといった子どももいることから、今年度からは各学校に校内支援教室を設け、かけはし・ひだまりの分校のような形で子どもの居場所づくりの取組を行っているところ。ある学校ではこういった校内支援を始めたことで引きこもりの子どもが一人もいなくなったという状況も確認できている。

委員：幼小連携について、私どもの園では近くの湖北台西小と交流しているが、ある子どもの声で、「僕は西小には行かないから」というものがあった。柏市に住んでいる子が我孫子の園に通ったり、我孫子市に住んでいる子が柏の園に通ったりといったケースもあり、園の近くの小学校に進学するとは限らない。高校や大学でも説明会やオープンキャンパスのような機会があるように、小学校でも、実際に通うこととなる学校で体験授業を受けたり、先生の顔が見られたりする機会があれば子どもたちも安心できるのではないだろうか。

事務局：ご意見として担当課にフィードバックさせていただく。

委員：不登校児童生徒への対応率は 100%と目標値を達成できているところであるが、所管課の事後評価のコメントを見ると、各担任が電話連絡や面談などを行い子どもや家庭との繋がりを保っているとのこと。近年では教員の不足が問題となっている中で、我孫子市においても仮に現在担任の負担が大きい状況なのであれば、現状の対応率 100%という状況で満足するのではなく、何か新しい連携の形も考える必要があると思われるが、現場の負担感はどのような状況か。

事務局：ご指摘のとおり、いろいろなケースの児童・生徒が増えている中で、担任の先

生も対応に苦慮することが困りごととしてあるようである。そういった際に先生方のフォローアップができるよう、今年から各校への心理相談員の配置を拡充しており、まだ十分に配置できているわけではないが、体制づくりを始めているところである。

委員：特別な対応が必要な子どもたちは増加傾向にあり、対応する先生方も疲弊している状況ではと感じている。問題が生じた子どもに対応することも大事だが、幼年期から対策してそういった問題を発生させない取組も必要だと感じる。最近では発達障害というよりは愛着障害といわれるようなケースも増えており、子どもに手をあげるようなはっきりとした虐待、ネグレクトではなくて、ごく普通の親が普通に育てられていないことが要因となっているという見方もある。あるアメリカの研究では、０～３歳までの子を育てている家庭を無作為に２つのグループに分け、片方のグループにのみプロの教育者が週に２回くらい子どもへの対応の仕方について指導したところ、将来の犯罪を起こす率や就職率などに良好な結果が得られたという例もある。幼少期に適切な子育てをすることは非常に大切で、根本的には社会全体で親が子どもと過ごす時間を増やすことを目指していく必要があるが、子どもへの適切な対応の仕方についての親へのアプローチや保育士の質の向上なども重要になってくると考えられる。

〈施策の評価〉

「良好」とした。

〇施策名称：３－４　心豊かにする体験・活動の推進

〈発言要旨〉

委員：あびっこクラブのチャレンジタイムというのはどのような活動か。

事務局：各クラブで特色のある活動で、習字、ショートテニス、グラウンドゴルフなど、地域の方にも入っていただいて子どもが様々な体験ができるような取組を推進している。

委員：コロナ禍でできていなかった活動が少しずつ再開されて良い方向なのではと感じるが、所管課のコメントを見ると、「目的に近づくための新たな環境づくりが求められる」とある。子どもたちが将来に夢や希望をもち、心豊かに成長できる環境づくりを進めるという施策の目的に対して何かビジョンのようなものがあるのか。

事務局：地域のボランティアサポーターの方々の協力を得て様々な取組を実施できており、今後も協力をお願いしたいとは考えているが、高齢の方も多いため、そこに頼るだけではなく、市で雇用しているスタッフにも色々な工夫を図っていただいて、これまでの取組にさらにプラスになるようなものを実施できればという趣旨と考えられる。

委員：高齢のサポーターの方々に協力していただくのもいいが、現役の保護者世代の方々にも協力していただいて、５、６年生向けにキャリア教育というか、職業体験みたいな機会を提供できたらよいのではと思う。

事務局：より幅広い視点で活動できるようなアイデアを検討できないか担当課に共有させていただく。

〈施策の評価〉
「良好」とした。

◎基本目標４　あびこにずっと安心して住み続けられるまちづくり
〇施策名称：２－２　健康づくりの推進
〈発言要旨〉
委員：特定検診の受診率という指標は、計画策定当初の現況値が 31.7%に対して、目標値が令和４年度で 54.0%、令和５年度で 60.0%とかなり高い目標設定である印象だが、何か考えがあってのものなのか。

事務局：直近で担当課の意図を確認したわけではないが、平成 30 年度の県の受診率が 40.7%と我孫子はだいぶ下回っていることもあり、そこも含めて設定しているものと考えられる。

委員：達成状況を見ると市民はあまり受けない傾向と見受けられるが何か原因はあるのか。

事務局：対象者が 40 歳から 74 歳の国民健康保険の加入者の方であり、自治体から案内が届いても受けないということは想定される。

委員：国民健康保険加入者は自営業の方が多いと考えられるが、印象としては男性は特に受けるのをためらう方が多いように感じる。必要性はわかっていてもなかなか腰が重い人も多いので、自営業の組合の集まりなどで、特に身近な人の体験談な

ども交えて啓発すると効果があるのではないだろうか。

委員:誰に対して情報発信するかという視点は重要である。我孫子市の公式LINEは様々な情報を提供していて日ごろから有用だと感じているので、自営業の組合に加入している方などチャンネルを絞って検診のお知らせなどができたら効果的だと思う。また、がん検診も同じで、必要性はわかるけどなかなか行動に移さない人たちに、自分と同年代の人が検診を受けたから助かったというような体験談を聞かせられたら心も動くのかなと感じる。やはり元気で暮らせる健康寿命を延ばすという大きな目的のためには地道な啓発が大事になってくるのだろうと思われる。

〈施策の評価〉
「概ね良好」とした。

〇施策名称:２－３　高齢者福祉の推進
〈発言要旨〉
委員:高齢者なんでも相談室について、どのような体制でどんな相談を受け付けているのか。

事務局:相談窓口を市役所の高齢者支援課のほかに市内５カ所に設置しており、体制としては市が事業者に委託し、社会福祉士、保健師、看護師、ケアマネージャー等が配置されている。相談内容としては特に限定せず高齢者福祉に係る困りごとに幅広く対応している。

委員:虐待の相談についても対応しているのか。

事務局:そういった事案の相談があれば専門の部署に繋ぎ支援を行っている。

〈施策の評価〉
「良好」とした。

【その他事務局連絡事項】
・本日の会議で基本目標４「２－３高齢者福祉の推進」まで評価が完了したため、第２回の会議において、「施策７－３スポーツの振興」から引き続き評価をお願いしたい。日程は９月中旬から下旬を目途に調整させていただく。

以上